

の教養教育で簡単なダンスや歌の指導をしてはいかげでしよう。国際化の時代に必要と思いません。

さらなる話は、弘前大学同窓会報七号(十八年五月発行)、学園便り(十九年五月発行)、次のHPをご覧ください。

<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/mathsci/m200612/>

定年後は、健康に気をつけ、消極的ですが、なるべく人に迷惑をかけない事を第一義としたと考えています。同窓会諸氏には、健勝で更なる活躍をされる事を祈っております。

手立てを尽くして

物質創成化学科

大関 邦夫



ここ数年、先輩の先生が退職されるたびに、「いい時おやめになりますね」と声をかけさせていたよ。自分もこの歳になり、今年はいよいよ自分の番となり、数年経って振り返ったとき、やはり「いい時」に退職させておきたいと思える様な気がしてきます。何はともあれ、無事定年を迎えられることは誠にありがたいことです。なんと

か健康でここまでこられたのは、家族の協力のもとより、常に若者と接することのできる環境に身を置いてこられたことによるものと思います。

私は、痕跡分析に適用できる吸光度法として、固相吸光度法に興味をもち研究してまいりました。これは、試料中の目的イオンを発色化合物に変えて、微細なイオン交換樹脂に捕捉し、樹脂を母液からろ過によりフィルターに集め、得られる発色樹脂層の吸光度を測定する一連の操作からなる定量法です。濃縮と検出を一体化して、測定法の感度と精度を高めることを意図しております。もちろん分光光度計で吸光度を測定する代わりに、目視でも色の濃淡を容易に判断できますので、簡易分析としても利用できます。吸光度法の最大の欠点は、共存するイオンの影響を受けやすいことです。そこで、妨害を防ぐ対策として、共存イオンを目的イオンの測定に影響しない形に変えるマスキング反応を検討し、それでもだめなら目的イオンを共存イオンから分離する方法を検討します。あらゆる手段を尽くし、目的イオンの濃度と吸光度の間に一对一の対応を見出すことができたときの喜びは何ごとにも勝るものです。この過程でたくさんのお学生さんと一緒に実験室で過ごしました。共に苦しみ共に喜んだ仲間です。共存イオンの妨害を除去する過程で培った粘り強さは社会にあっても通用するものと確信しております。

卒業生の皆様の御活躍を心から祈念致します。

定年にあたり

物質創成化学科

須藤 進



同樹会の会員の皆様方には、益々ご健勝のことと存じます。

私は、弘前大学に理学部が設置されて間もない時期に赴任いたしました。以来、三十数年が経ちます。また、理工学部の設置からも一〇年が経ちました。理工学部の卒業生の皆さまもそれぞれ分野でご活躍のことと推察致しております。理学部のときは化学科に籍を置きました。理工学部では化学科は物理学科と合わり物質理工学科となりました。物理と化学の両方の知識を備えた諸君と一緒に研究できるのではないかと発足当初は信じてきたのですが、私の研究室には、残念ながら卒業研究の希望者は多くありませんでした。それでも、一緒に研究に取り組んでくれた諸君に感謝いたしております。理工学部第一期の皆さんとは五所川原の工場見学後、青森市の三内丸山遺跡を見学しました。そのとき、何人かの諸君が縄文時代の方法で火起こしに挑戦している姿が思い起こされます。また、新入生歓迎会の世話役をした際、種々の事情からアルコール飲料の

ない歓迎会を初めて行いました。卒業された皆様はどのような思われたでしょうか。構成員全員の希望を満足させることが如何に大変な事であるかを思い知らされました。

一方、三十年続いた理学部の同窓会は同樹会へと引き継がれました。理学部同窓会(当時の会長は長尾先生(現在は物質創成化学科))は、理学部創設二十五周年記念事業の一環として、理工学部一号館(理学部時代には一号館のみ)の中庭を整備され、岩木山の岩石を据え置かれたと聞いております。講義の合間、時に中庭に目を移すことがあります。四季折々に、中庭の様子は変わりますが中央に配置された石は巖の如く動じません。同窓生の皆様が、津軽の名峰岩木山の如く高い志と、中庭の岩石の如く強い意志を持ち、益々活躍されますようにとの願いをこめて整備されたものと信じております。今年度は研究室の諸君共々いくつかの論文を仕上げることも出来ました。若い皆様にあやかり、これからも励んでゆきたく思っております。

最後に、同樹会の今後のご発展と会員の皆様の益々のご活躍とご健康を祈念致します。



理工学部就職状況

理工学部と理工学研究科の就職状況

一さま変わりする就職活動の中、高い就職率を維持！

理工学部

就職対策委員長

田尻 明 男

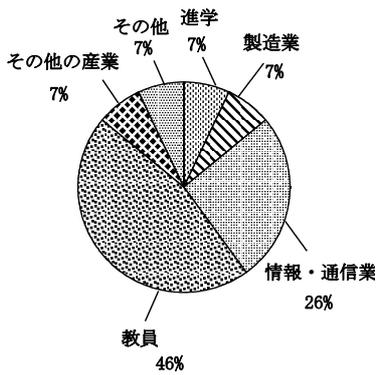
現在理工学部あるいは理工学研究科に在籍する学生諸君の就職活動は、保護者の皆様の時代のそれとは大きくさま変わりしています。かつて就職活動と言えば、せいぜい最終学年の後半からだったと思いますが、今は学部においては三年生、研究科においては一年生になると広い意味での就職活動が始まります。これは企業側の求人活動が年々早くなってきた結果に加えて、特に法人化後、大学も学生諸君の就職支援を運営戦略の一つと考えるようになったからです。学生諸君の就職は保護者の皆様全てが多くなる関心を寄せ、また期待される所であり今の様な状況自体は結構な話なのです。大学側から見ると、学生諸君が落ち着いて勉強する時間が少なくなってきたのでは、という心配も生じます。

また、求人に応じる際の手続きもインターネットを利用したエントリー方式が圧倒的に多くなり、その支援業務を生業とする企業が生まれたりもしています。

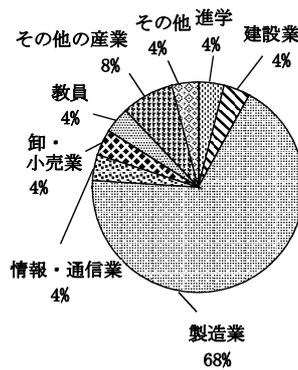
このような中、いわゆる団塊の世代が定年を迎えることによ

平成十七年度
理工学研究科就職状況
分野別グラフ

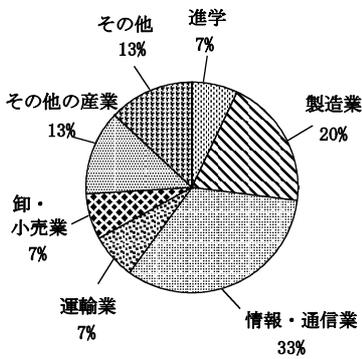
数理システム科学専攻



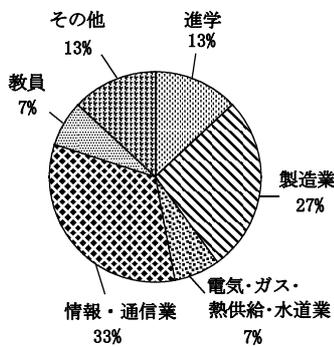
物質理工学専攻



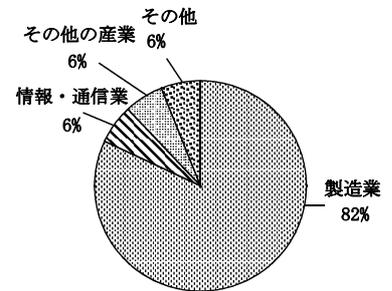
地球環境学専攻



電子情報システム工学専攻



智能機械システム工学専攻



電子情報システム工学科



数理システム科学科

去る平成十八年三月二十三日、例年通り大学会館三階大広間にて、理工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会が開催されました。ここ数年の祝賀会への参加率低迷を受けて、同樹会未加入の卒業生、修了生に向け、学生生活最後の学友や恩師との懇談の場に参加頂きたいと、二千五百円(写真代含む)の

参加費だけでも出席頂けるように告知しましたが、周知不足からか思うように参加率が伸びない状況でした。今後、運営側の周知を徹底し、参加率向上を計る所存です。
なお、祝賀会準備及び開催にご協力頂いた理工学部教職員関係各位に感謝申し上げます。次第です。

平成十七年度
理工学部卒業・理工学研究科修了
祝賀会

平成17年度 弘前大学理工学部同樹会収支決算書

平成18年3月31日現在

◎収入の部

項目	金額	摘要
前年度繰越金	円 6,900,276	
会費	1,680,000	正会員 168人 学部 1年 80人 800,000円 1年(18年度入学) 69人 690,000円 2年 0人 0円 3年 4人 40,000円 4年(祝賀会時納入) 1人 10,000円 3年次編入生(18年度入学) 5人 50,000円 院生 1年 8人 80,000円 2年 1人 10,000円
預金利息	3	
計	8,580,279	

◎支出の部

項目	金額	摘要
弘前大会学費	円 240,000	10月18日払込み
同樹会報作成費	189,000	第6号(2,000部)
会員交流支援費	28,187	札幌市周辺在住の卒業生(高校の先生)との懇談会補助
卒業・修了会祝賀	220,330	平成17年度卒業・修了祝賀会経費
写真代	193,305	平成16年度卒業・修了祝賀会写真代(103,005円) 平成17年度卒業・修了祝賀会写真代(90,300円)
通信費	14,166	加入案内送料(研究科新入生), 卒業・修了祝賀会写真送料(10,206円) 平成17年度卒業・修了祝賀会写真送料他(3,360円) 会費重納分返還送料(600円)
会議費	0	
事務費	120,000	雇用費
謝金	0	
消耗品費	16,765	封筒, プリンターラベル, インクカートリッジ他
郵便振替払込費	7,890	会費払込手数料(167人)
会費重納分返還	10,000	会費返還(1人)
予備費	7,540,636	次年度以降経費引当金を含む
計	8,580,279	



物質理工学科



知能機能システム工学科



地球環境学科



平成18年度 弘前大学理工学部同樹会収支予算書

平成18年4月1日現在

◎収入の部

項目	金額	摘要
会費	3,500,000	正会員 350人×10,000円=3,500,000円 <small>学部 1年 300人 2年 20人 3年 15人 4年 15人</small>
前年度繰越収支差額	7,540,636	
計	11,040,636	

◎支出の部

項目	金額	摘要
弘前大会費	240,000	円
同樹会報作成費	200,000	2,000部発行
卒業・修了会祝賀	250,000	125人×@2,000円
写真代	100,000	平成18年度卒業・修了者祝賀会写真
通信費	15,000	加入案内送料(研究科新入生)他
会議費	10,000	
事務費	120,000	雇用費
消耗品費	50,000	
郵便振替払込費	15,000	会費払込手数料
予備費	10,040,636	次年度以降経費引当金を含む
計	11,040,636	

監査 幹事 副会長
 須藤 荒木 一松 田三 千
 藤木 條野 中浦 葉
 勝宏 健徹 克賢 信
 弘孝 司也 人二 行



理工学部同樹会
ホームページ公開



兼ねてより準備して参りました理工学部同樹会ホームページを公開致しました。ホームページアドレスは <http://www.sci.hiroaki-u.ac.jp/~doju/> です。まだまだ見苦しい点など多々あるうかと思えます。また個人情報保護に十分に配慮しながら情報の掲載を行って参りますので、会員各位の希望する情報の質や量にお応えできないかも知れませんが、今後、会報のバックナンバーや学部の今など、弘前を離れている、いないに関わらず多くの会員各位にご覧頂ける情報を掲載する予定です。是非アクセスをお願い致します。

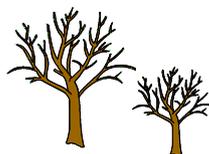
編集後記

平成十七年度より幹事(会計担当)を務めております一條です。二年目になりましたが、まだ不慣れな点も多く、関係各位のご協力を賜りながら何とか勤めているところです。

今年平成十八年の冬はご存知の通りの記録的な暖冬で、ここ弘前も例外ではなく、除雪に追われる日々から開放された安堵と、雪の衣の薄い肌寒そうな岩木山を眺める淋しさと、環境破壊への警鐘かとの危惧が入り混じった毎日を過ごしております。短い冬となれば、早い春になるかと、弘前公園の桜の様子も気になり始めているこの頃です。いずれにしましても季節は巡り、理工学部の卒業生、理工学研究科の修了生が本学を巣立ち、社会という大樹の方々の節に新芽として顔を覗かせる頃となりました。いずれ大きな葉となり大樹の脈に養分を供給するだけの力をつけるまで、会員各位のご支援を頂きながら育てて欲しいと願うばかりです。大樹の「樹」の字は同樹会の「樹」の字でもあります。それは、文学部理学科、理学部・理工学部の各学科、理学研究科・理工学部研究科の各専攻が、弘前大学という幹に伸びた枝の様相を呈し一つの大樹を成していることを意味しています。会員各位におかれましては、

事務局

弘前大学理工学部 一條 健司
 住所：〒036-8561
 弘前市文京町三
 電話：0172-39-3660
 E-mail：ken@eit.hirosaki-u.ac.jp



例年より早い春の足音に、弘前の桜と、理工学部を巣立つ若者すなわち同樹の新芽の様子を気にかけて戴き、弘前大学理工学部への積極的なご支援とお知恵を是非とも同樹会事務局宛にお寄せ頂きたく思います。最後に様々な面にてご協力頂きました、理工学部事務長始め事務職員の方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。